

5.1 目標1 自転車を快適に利用できる環境づくり

施策1. 自転車通行空間ネットワークの形成

自転車だけでなく、歩行者や自動車も安全で快適に道路を通行できるよう、自転車通行空間の整備を推進し、小倉都心地区をはじめとする13の整備拠点について、拠点内および拠点間を結ぶ自転車通行空間ネットワークの形成を図ります。

また、整備拠点ごとに自転車ネットワーク計画を策定し、計画的かつ効果的な自転車通行空間の整備を推進します。

なお、自転車ネットワーク計画については、自転車の利用状況などに応じて適宜更新します。



図 自転車通行空間ネットワーク形成のイメージ

(1) 自転車ネットワーク計画の策定

自転車ネットワーク計画を構成する路線については、下記の①～⑩を適宜組み合わせで選定します。

- ①自転車交通量の多い路線
- ②交通結節点や公共施設、そのほか地域の核となる商業施設などに接続する路線
- ③自転車事故の多い路線
- ④高校や大学へ接続する路線
- ⑤自転車利用の増加が見込まれる、沿道で新たに施設立地が予定されている路線
- ⑥シェアサイクルのステーションを結ぶ路線
- ⑦既に自転車通行空間が整備されている
(または整備に着手している) 路線
- ⑧自転車ネットワークの連続性を確保するために必要な路線
- ⑨情報通信技術を活用した利用実態に即した路線
- ⑩広域サイクリングルート選定路線

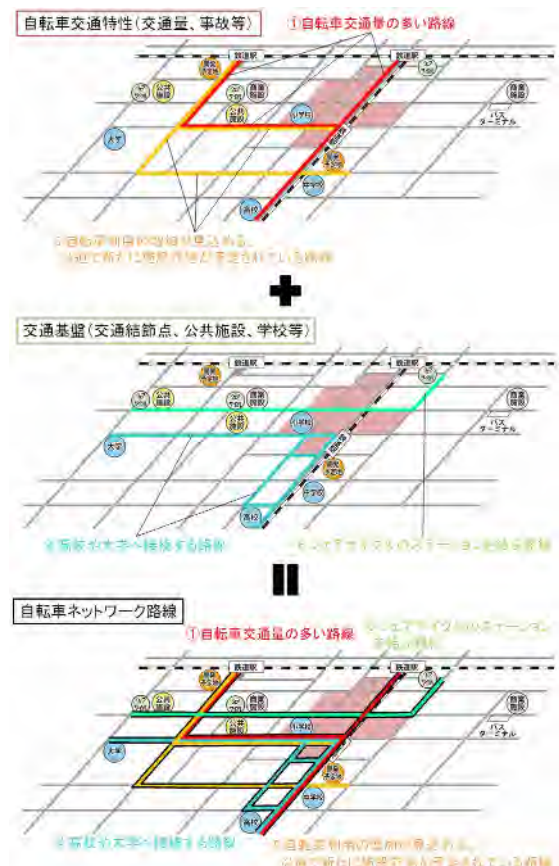


図 自転車ネットワーク計画路線の選定イメージ

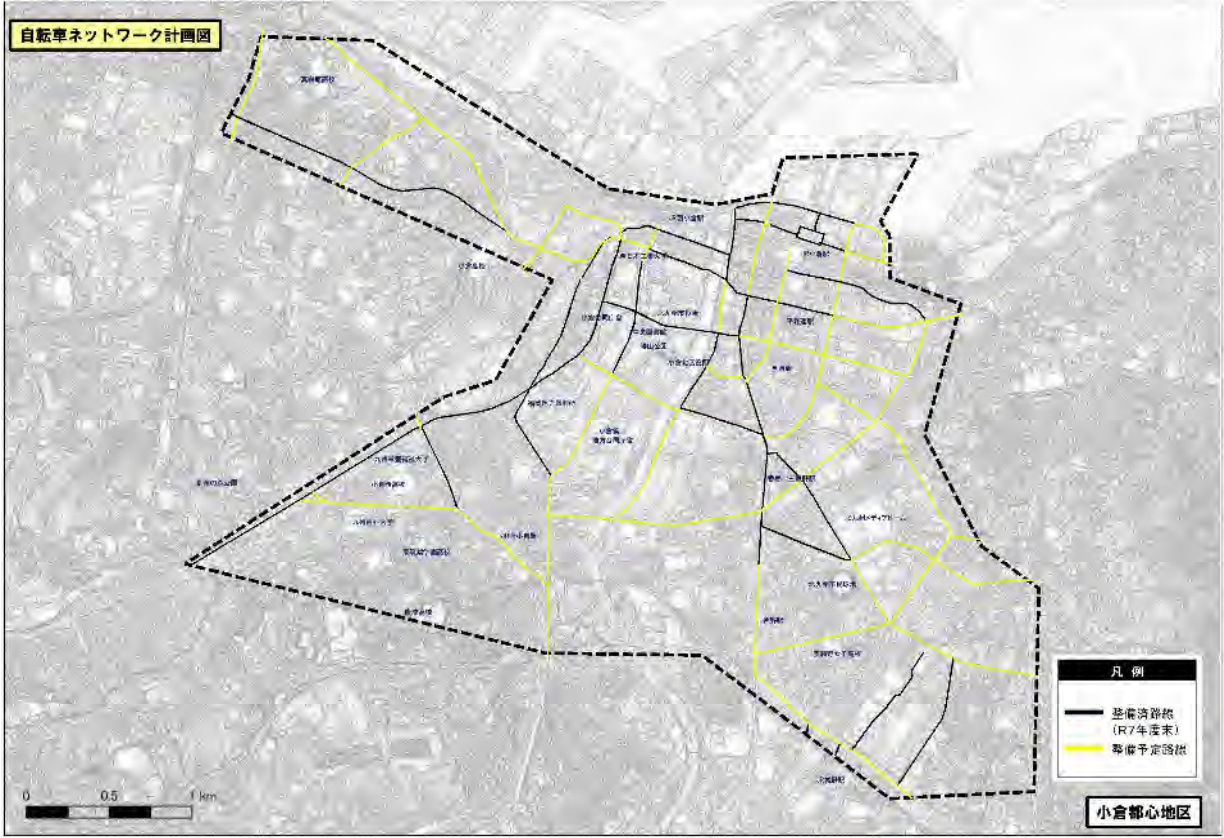


図 ネットワーク計画図（小倉都心地区）

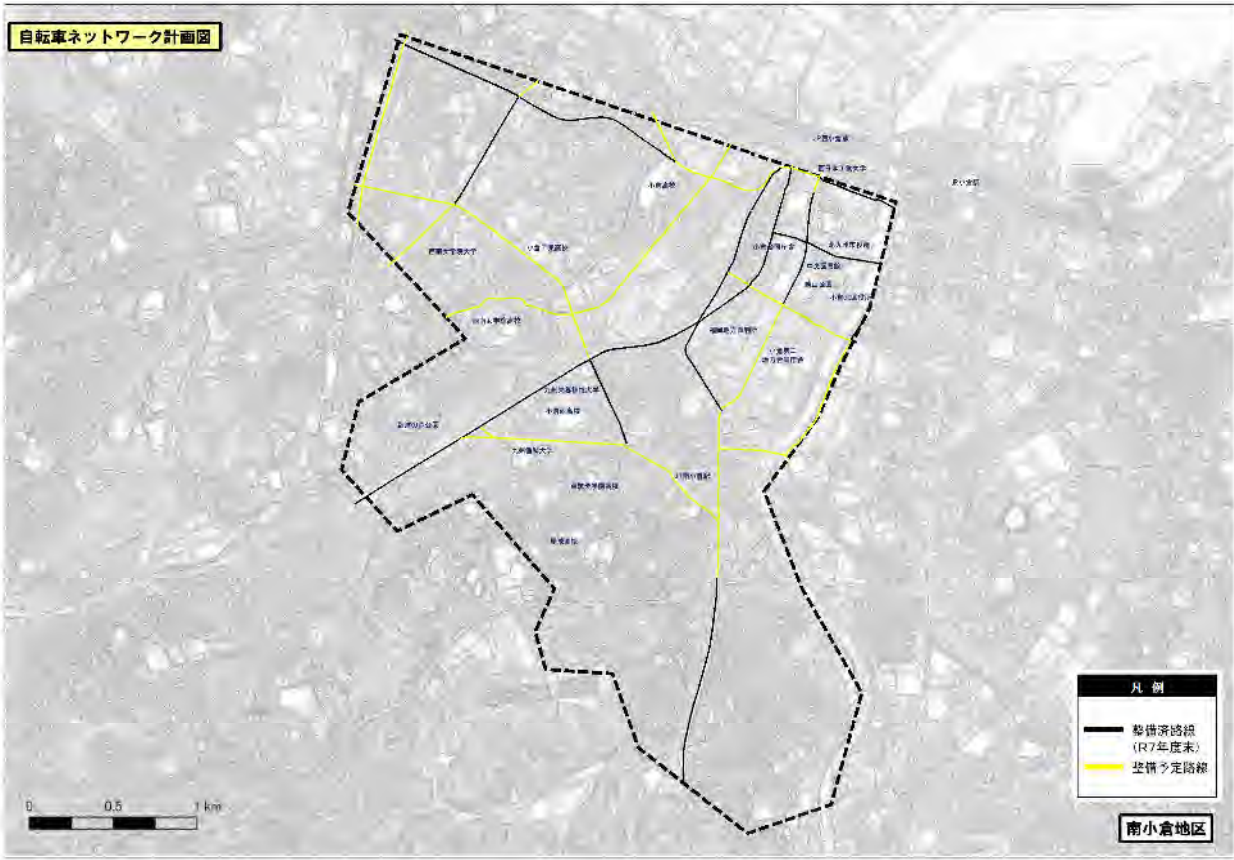


図 ネットワーク計画図（南小倉地区）

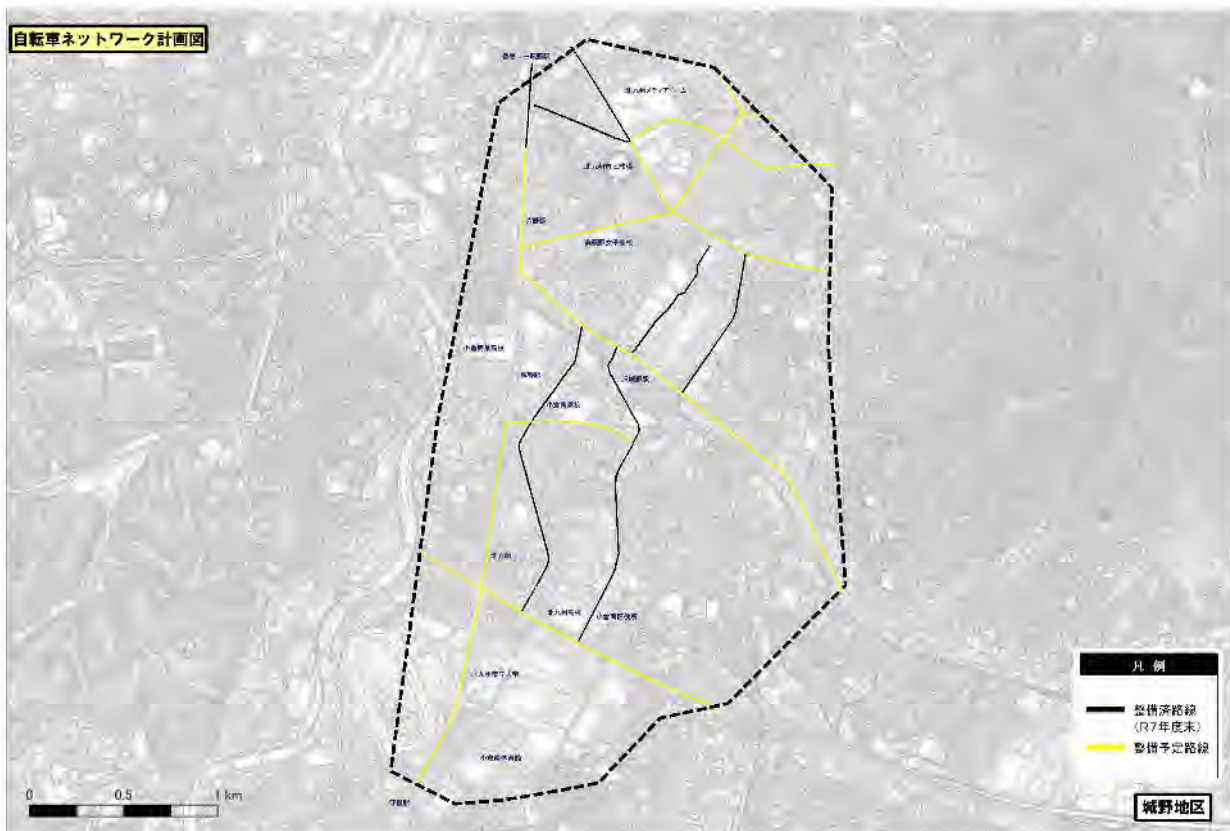


図 ネットワーク計画図（城野地区）

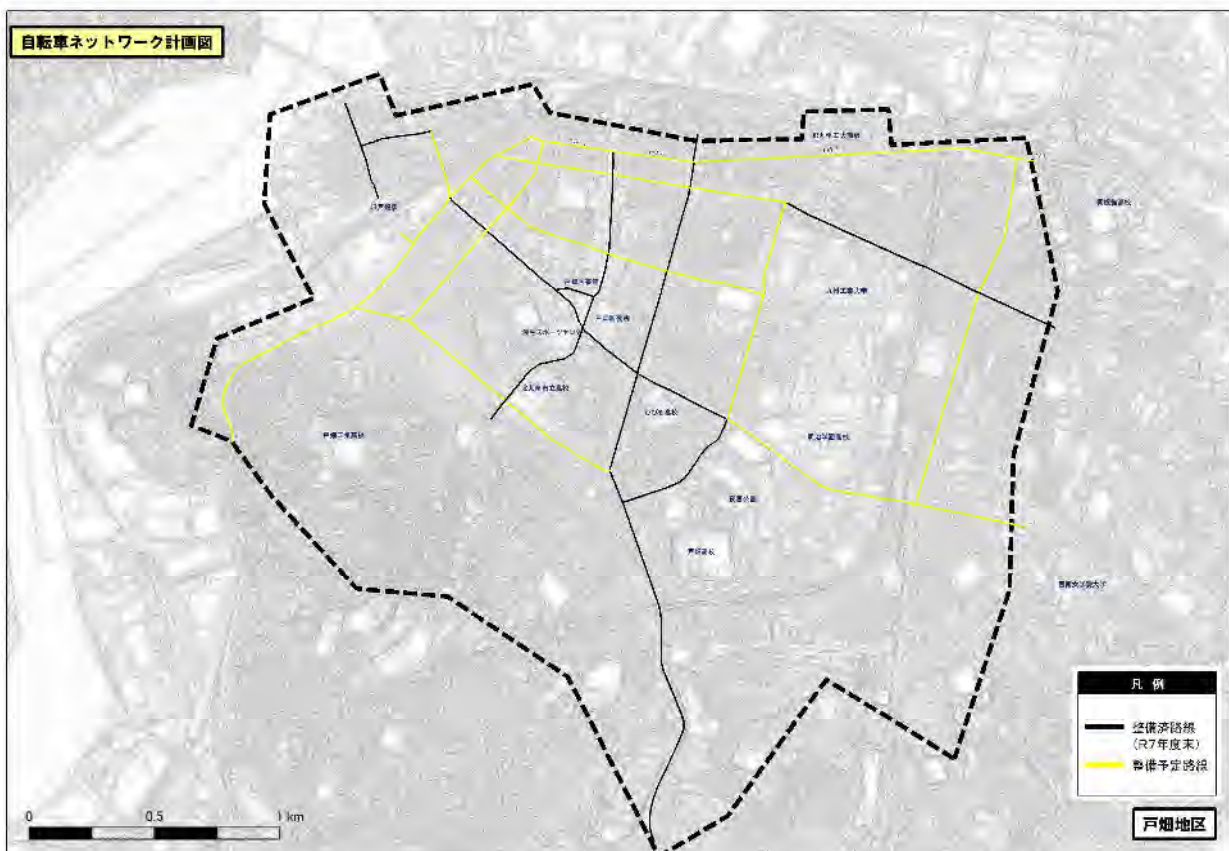


図 ネットワーク計画図（戸畑地区）

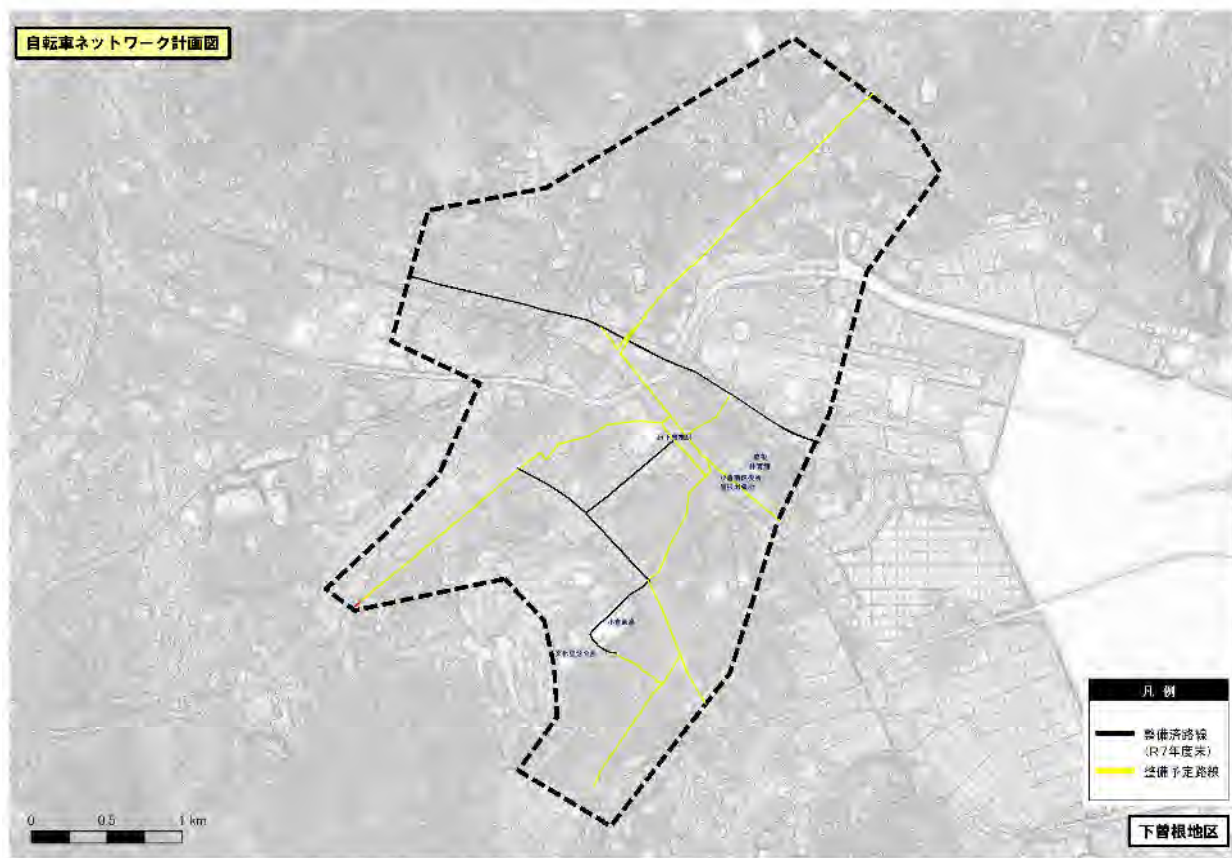


図 ネットワーク計画図（下曽根地区）

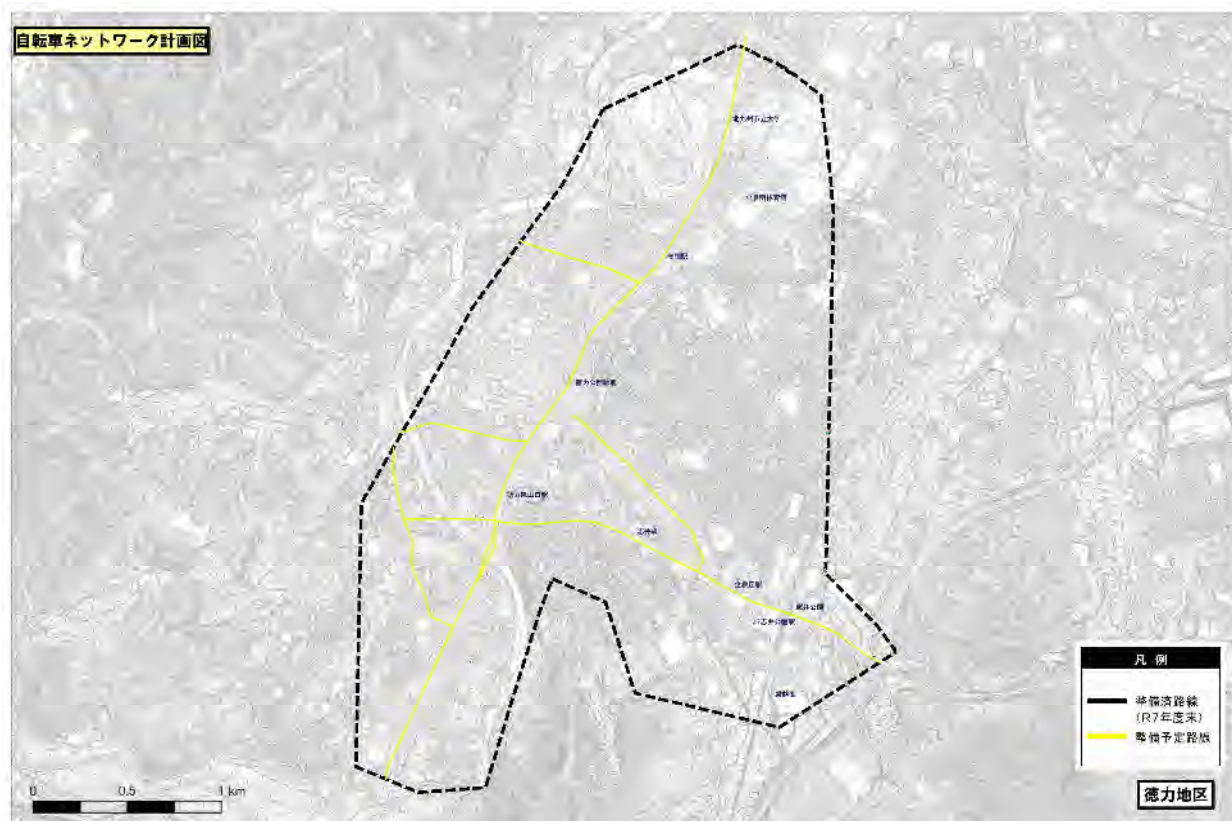


図 ネットワーク計画図（徳力地区）

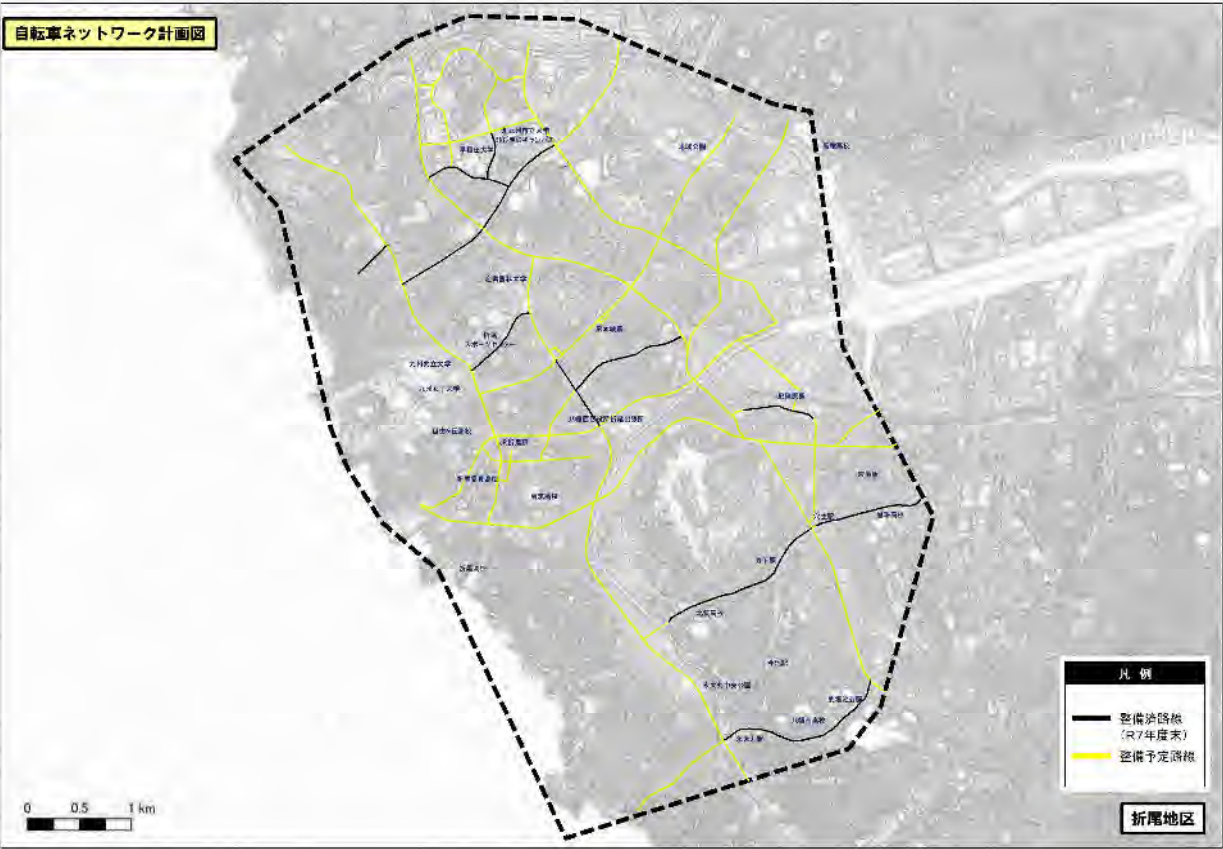


図 ネットワーク計画図（折尾地区）

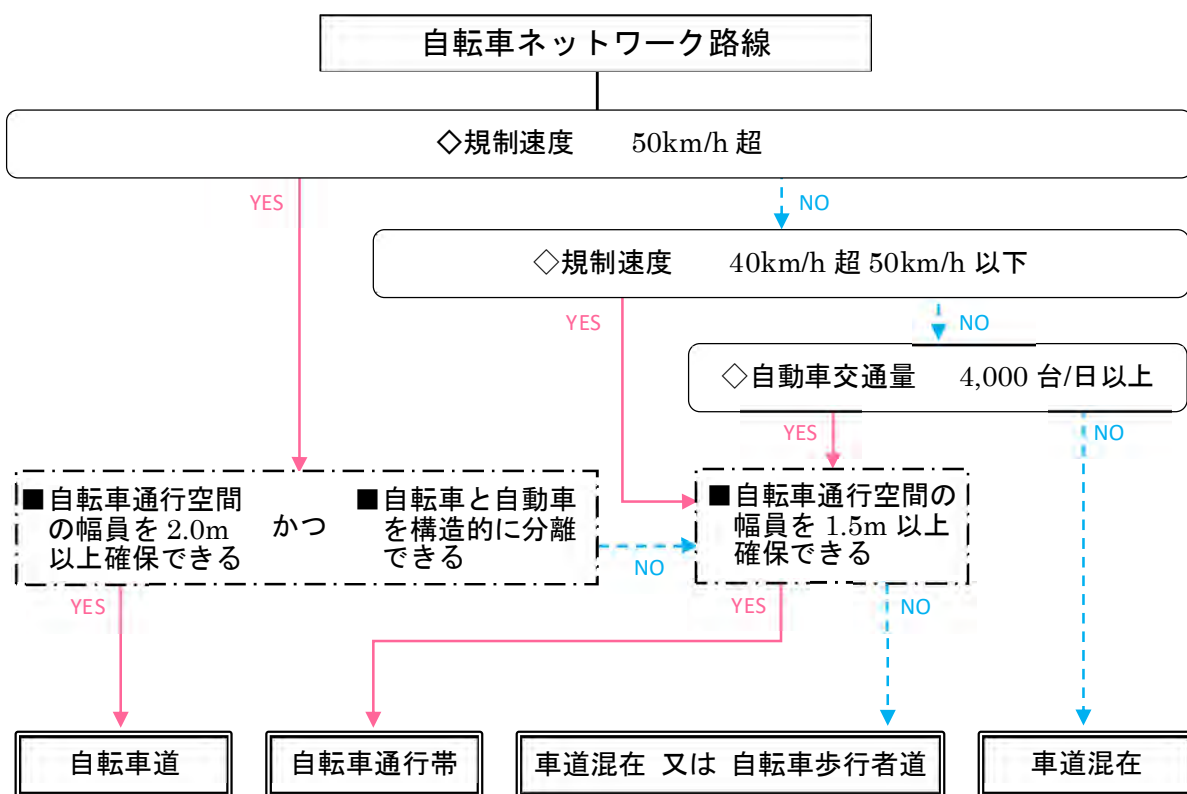
(2) 自転車通行空間の整備

自転車通行空間の整備においては、「安全で快適な自転車利用環境創出ガイドライン（令和6年6月国土交通省・警察庁）」や令和2年11月の「道路構造令」の改正を踏まえ、下記の基本的な考えのもと、対象路線の交通状況を総合的に勘案したうえで、交通管理者などと協議しながら適切な整備形態を選定します。

また、自転車利用者が、安全で快適に自転車通行空間を走行できるよう、適切な維持管理に努めます。

さらに、既存道路において自転車通行空間を整備する際、電柱や照明柱など道路付属物が自転車走行の支障となる場合は、必要に応じ移設などを検討します。

＜自転車通行空間の整備形態選定の基本的な考え方＞



※空間的制約等により上記整備形態が困難な場合は、代替路の検討を行う。
また、将来、改良工事实施の際には、再度整備形態を検討する。

＜自転車通行空間の整備形態と整備イメージ＞

整備形態	整備イメージ		
自転車道			
自転車通行帯			
車道混在			
自転車歩行者道 (分離タイプ)			
自転車歩行者道 (共存タイプ)			

施策 2. 利用しやすい駐輪環境の形成

ニーズや利用特性に応じた駐輪施設の整備や主要駅等に設置した市営有料自転車駐車場の利便性向上により、利用しやすい駐輪環境の形成を図ります。

(1) ニーズや利用特性に応じた駐輪施設整備の推進

自転車利用や放置自転車の状況を踏まえ、目的や日時等の利用特性に応じた駐輪施設の整備を推進します。

また、自転車と公共交通との連携を強化し、相互の利便性の向上を図るため、JR 駅やモノレール駅、バス停における駐輪施設の整備を推進していきます。

＜八幡駅前自転車駐車場＞



＜堺町地区の駐輪施設＞



＜三萩野バス停自転車駐車場＞



資料：北九州市道路維持課

(2) 市営有料自転車駐車場の利便性向上

利用者の入退場をスムーズにするために、自動入出庫機器の導入を進めています。これにより、24 時間 365 日の利用や、現金のほかキャッシュレス決済（ＩＣカード、各種ＱＲコード決済、クレジットカード等）の利用が可能となります。

また、近年利用が増加している電動アシスト付自転車や子ども乗せ自転車といった多様な車種に対応できる駐輪スペースの確保に努めるなど、自転車利用者にとって使いやすい施設を目指した取り組みを推進します。

＜西小倉駅前自転車駐車場＞



自動入出庫機器（自動ゲート）の導入例

＜戸畑駅前自転車駐車場＞



子ども乗せ自転車に対応した駐輪施設例

＜小倉駅南口自転車駐車場＞



個別式ロック（自転車）の導入例

＜小倉駅南口自転車駐車場＞



個別式ロック（バイク）の導入例

資料：北九州市道路維持課

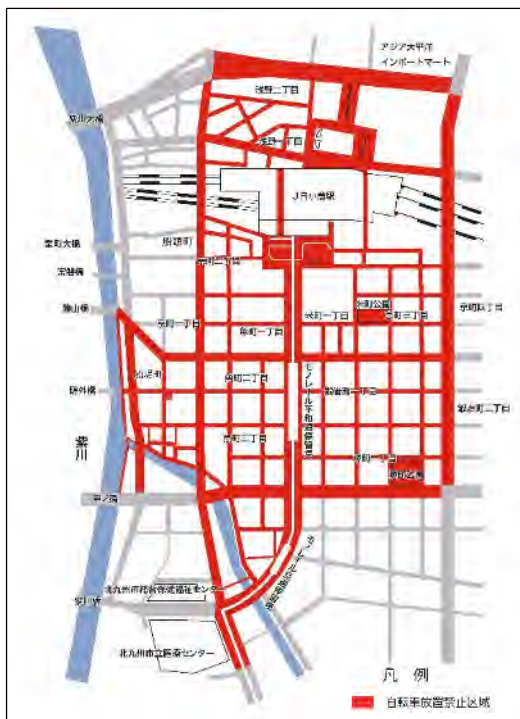
施策3. 放置自転車対策の推進

自転車や歩行者の通行阻害や都市景観の悪化などの要因となる放置自転車に対し、利用しやすい駐輪環境の形成とあわせて、「北九州市自転車の放置の防止に関する条例」に基づく自転車放置禁止区域の指定や放置自転車の撤去のほか、駐輪ルールに関する広報・啓発などの取り組みの充実を図ります。

(1) 自転車放置禁止区域の指定と放置自転車の撤去

放置自転車の多い地域については、必要に応じて自転車放置禁止区域の拡大や新たな指定を検討します。また、自転車の放置の多い時期や時間帯などを踏まえ、効果的な放置自転車の撤去を実施していきます。

また、古くなった自転車放置禁止区域の路面標示の調査や更新を適宜行うなど、自転車放置禁止区域の周知に取り組みます。



JR 小倉駅周辺地区自転車放置禁止区域図
(R8年3月31日時点)



JR スペースワールド駅周辺地区自転車放置禁止区域の追加
(R4年4月1日指定)

資料：北九州市道路維持課

<放置自転車の撤去（夜間）>



資料：北九州市道路維持課

(2) 駐輪ルールに関する広報・啓発

駐輪指導員による啓発や駐輪施設への誘導のほか、街頭啓発や市内の高等学校へのパンフレットの配布などの広報・啓発活動を継続的に実施します。

＜放置自転車の防止に関するパンフレット＞



資料：北九州市道路維持課

施策4. シェアサイクル事業の推進

公共交通の機能補完やまちの回遊性向上に寄与し、通勤・通学、買い物、観光、ビジネスと多様な用途への活用が可能な交通サービスであるシェアサイクル事業を推進します。

シェアサイクル事業の推進にあたっては、さらなる利用の促進を図るため、効果的なステーションの設置や公共交通と連携したサービスの導入などを検討します。

＜ミクチャリステーション＞



＜LUUP ポート＞



(1) 効果的なシェアサイクルステーションの配置検討

シェアサイクルにおいては、利用できるステーションの数や位置が利便性に大きく関係します。そこで、利用者ニーズや公共交通との連携などを踏まえた効果的なステーションの配置を検討します。

		令和3年度	令和7年度
ステーション数	ミクチャリ	26 箇所	52 箇所
	LUUP	—	96 箇所
	合計	26 箇所	148 箇所
自転車台数	ミクチャリ	150 台	150 台
	LUUP	—	125 台
	合計	150 台	275 台
一日平均利用台数		75 台/日	330 台/日

表 ステーション数と利用台数の推移

(2) 公共交通と連携したサービスの導入検討

シェアサイクルと公共交通を組み合わせた経路検索や予約・キャッシュレス決済まで行う MaaS (Mobility as a Service) の導入を検討します。

施策 5. 情報通信技術活用の推進

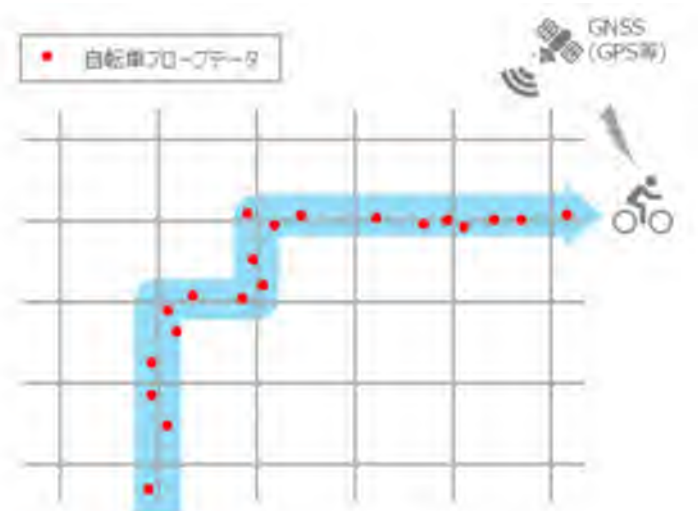
自転車施策を客観的な根拠に基づき、効率的かつ実効性のあるものとするため、情報通信技術の活用を推進します。

国が公開する交通事故情報や交通量等の「オープンデータ」に加え、シェアサイクルから得られる「GPS データ（自転車プローブデータ）」等の活用により、実際の利用実態に即した自転車通行空間の効率的な整備や、優先的に整備すべき路線の選定を行います。

また、走行実績や需要の分析結果に基づき、利用者の利便性を高めるシェアサイクルステーション（サイクルポート）の設置を進めるなど、データに基づいた高度な自転車利用環境の構築を図ります。



主な自転車プローブデータの概要



自転車プローブデータのイメージ

施策6. サイクル&ライドの促進

(1) ニーズや利用特性に応じた駐輪施設整備の推進【再掲】

自転車と公共交通との連携を強化し、相互の利便性の向上を図るため、JR 駅やモノレール駅、バス停における駐輪施設の整備を推進していきます。

(2) サイクルトレイン・サイクルバスの導入検討

自動車依存からの脱却をしていくためには、公共交通や自転車の利用促進が必要であることから、公共交通や自転車の利便性を向上していく必要があります。そこで、中長距離を移動できる公共交通と短距離を機動的に移動できる自転車の連携を図り、鉄道やバスに自転車をそのまま乗せられる「サイクルトレイン」、「サイクルバス」の導入を検討します。

＜サイクルバスの事例＞



サイクルバス（西日本鉄道株式会社）



サイクルバス車内（西日本鉄道株式会社）

資料：西鉄グループHP

＜サイクルトレインの事例＞



上毛鉄道サイクルトレイン（上毛電気鉄道株式会社）

資料：上毛電気鉄道株式会社HP

＜サイクルシップの事例＞



若戸渡船（若松～戸畑間）

資料：スマートサイクルライフ北九州

本計画の取り組みにあわせ、自転車通行空間の整備状況や駐輪施設の位置をはじめとして、シェアサイクル、サイクル&ライド、自転車を活用した健康づくり、サイクルツーリズム、自転車利用におけるルールやマナーなど、自転車に関する情報を一元的に提供できるようコンテンツの充実を図ります。

＜自転車ルール・マナーの情報発信＞

[illegible]

- 54 -